

授業改善懇談会の設置の試み

石田淳一・福田幸男

横浜国立大学教育人間科学部 FD 委員会

横浜国立大学教育人間科学部 FD 委員会は平成 15 年度の活動の 1 つとして、授業改善懇談会を企画することとした。これまでも学生による授業評価が一部の科目で行われていたが、授業評価アンケートだけで学生の授業改善に関する要望を把握することは困難であった。そこで、学生から直接、授業改善の要望を聞き、解決可能なものは速やかに改善策を講じて授業改善に役立てようという目的から「授業改善懇談会」の設置を試みた。

1. 授業改善懇談会の構成

15 年度後期は、試行的に教育人間科学部学校教育課程の 1・2 年生を対象に実施することになった。構成メンバーは、教員は 6 名、学生は 25 名で、その内訳は次の通りである。

学生代表：学校教育課程の 1 年生 1 2 組の各組から代表 1 名

2 年生 1 3 の専門領域から各 1 名

教員代表：学部長、学校教育課程長、FD 委員会委員長、同副委員長、同授業改善懇談会担当委員 2 名

2. 実施方法

平成 15 年 11 月 10 日（月）の 1 限に実施した。学生代表を 3 グループに分けて、それぞれに教員が分かれて、学生から自由に要望を出してもらった。司会進行役の教員は、大きく専門科目と教養科目に分けて授業改善の要望を聞いた。当日欠席予定の学生には文書で回答するよう求めた。

3. 学生から出た要望の分類

(1) システム

時間割や受講に関する要望がある。

- ・時間割の中で定められた場所以外に置かれている科目がある。
- ・スペイン語を他学部の学生も受講できるようにしてほしい。

(2) クラス編成

いくつかの授業で小規模クラスにしてほしいという要望がある。特に外国語科目に多い。またレベル別のクラス編成を望む声もある。英語のレベル別クラス編成は必ずしもうまくいっていない。機械的に物理・生物クラスと化学・地学クラスに分けて実施している理解概説のクラス分けには改善が強く望まれている。

- ・小学校教科専門科目のクラスサイズは 60 人では多い。30 人にしてほしい。
- ・コンピューティングの授業でもレベル別のクラス編成をしてほしい。

(3) 授業内容

授業内容に関しては、内容が難しい、専門的すぎるという声が多い。特に小学校教科専門科目や教養教育科目が専門の授業と同じであるとの意見が多い。小学校教科専門科目と初等教育法の授業内容の連携を求める意見が多い。

- ・教員の専門分野に偏りすぎるので、小学校の教科全般に関わる内容にしてほしい。(家庭科概説、理科概説、社会科概説、数学概説)

- ・2年次以降の教科専門科目と1年生の小学校教科専門科目の内容の重複がある。
- ・シラバスとは異なる内容の授業である。
- ・初等教科教育法では実践的な力を育てるような内容を教えてほしい。
- ・教科書の難易度が同じ科目でも担当教員により異なる（中国語）。
- ・前期の文法と後期の授業の連携がうまくできていない。教員どうしの連携で前期と後期を一体化した授業内容構成にしてほしい。（ドイツ語）

（4）授業方法

声が小さい。OHPが見えない。板書がよくないなどの意見が多い。教員が一方的に話すだけの講義には学生も拒絶しているが、学生が参加する討論を含めた授業は歓迎されている。

- ・教科書をなぞるだけの授業がある。（英語）
- ・同一科目でも教員の授業力に差がある。（中国語）
- *レポートの数が多すぎる。レポート課題に授業で触れられていない内容が出る。

（5）成績評価

評価の厳格さが授業科目によって異なる点が問題である。

- ・同一科目でも教員のちがいで評価がちがすぎる。（社会科概説）
- ・レポートの課題、期限などが不徹底で、評価にばらつきがある。（教養科目）

（6）教員の授業に望む態度

遅刻が多い授業。休講が多い授業。騒がしくても注意しないなど教員の授業態度に疑問を感じている学生が多い。

4. 改善に向けて

学生からの授業改善の要望をどこで検討するかといった問題がある。問題を提起してその解決を検討する担当区分として、個々の授業担当者、授業科目開設に責任をもつ講座、担当委員会、学部内の教務委員会、全学教務委員会がある。問題ごとに担当部署に検討を依頼し、速やかに改善策を実行できるような授業改善システムを早急に作る必要がある。

① 全学教務委員会による検討

- ・他学部で開講されているスペイン語を教育人間科学部の学生も受講できるようにする問題や語学のクラス規模を小さくする問題
- ・成績評価の厳格化に関しては、組織としての一体的な取り組みが求められる。今後は科目ごとに到達目標を明示し、達成度に応じて評価基準を設けるようにすべきである。

② 学部内教務委員会による検討

- ・時間割の区分を厳守して授業科目を配置する問題

③ 担当委員会による検討

- ・「コンピューティング」のクラス編成

④ 担当講座による検討

- ・理科概説のクラス編成や家庭科概説や社会科概説などの授業内容
- ・講座が責任をもつ専門科目の科目間の相互関連性

⑤ 個々の担当教員による検討

- ・授業方法や授業に対する姿勢の問題

- ⑥ 授業科目の内容については、授業科目群の目的を明確にすることから始める必要があるものがある。例えば、小学校教科専門科目ではどんな目的でどんな力を育てるのかを明確にする作業が必要である。しかしながら、これを行う組織が存在しない点が問題である。